

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400251		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート賀茂		
所在地	福岡市早良区賀茂4丁目41-30		
自己評価作成日	令和2年10月7日(水)	評価結果確定日	令和3年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和2年12月25日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者が、「今を生きる」を理念に、ご自分の存在についてどのように感じ、どのように生きようとして
されているかを、知りたいと思うことに努めます。さらにご本人の「やりたい・出来るかもしれない」、楽し
みにしていることを、発揮していただけるように支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を
実現するケアを実践します。
ご家族や地域の皆様にも支えていただきながら、あたたかで安心できる暮らしを創ることを目指してい
ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート賀茂」は平成28年4月に開設。のどかな田園の一角にある2ユニットからなるグループホームである。母体
法人は福岡、長崎で複数の介護施設を運営しており、近隣に系列のグループホーム、特別養護老人ホーム、サ
ービス付き高齢者住宅などがある。法人主催の祭りには、近隣の方に法人から案内をだし、参加して頂いている。公
民館館長さん、民生委員さんが訪問していただき、近隣の方が何かと力になってくれている。コロナ禍のなかで、外
出も思うようにできず、家族との交流も時間が限られていたが、ご家族にも安心して頂くように利用者さんの元気な
写真を添えお手紙と一緒に送付した。もみじの前にベンチを置き季節の移ろいを感じてもらったり、中庭に花をあし
らいお茶を楽しんだり、利用者、職員とともに、「今を生きる」の理念のもと、時をいっしょにしながら過ごしている。今
後も地域に根付いた事業所となる事が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「今を生きる」を基本に、各ユニットのごとに目標を設けている。施設理念は事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで、唱和し共有し実践している。	理念は「今を生きる」事業所独自の理念であり、ホーム長が作成。事務所の目に触れやすい場所に掲示しており、毎日見る機会がある。ユニット会議の時に、唱和、共有し、利用者一人ひとりの思いや、家族の願いを実現すべく話し合いを行い、各ユニット毎に目標を設け、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事、公民館で行われる教室に定期的に参加し交流を行っている。公民館のサークル活動に、入居者が参加をしている。	今年はコロナ禍のなか、地域との交流は難しかった。町内会に加入しており、昨年は公民館の文化祭に行った。公民館のサークル、踊り、習字、ちぎり絵などに参加し、交流を行っている。ちぎり絵は得意な人が数人おり、職員と一緒に素晴らしい作品を作成した。公民館ではホーム長が「認知症の話」「ケアの方法」などの話を行った。催し物を通じて、地域の方と認知症の方が、触れ合う機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に来て頂くだけでなく、催し物を通じて、認知症の方と触れ合う機会を作っている。夢実現やサークル活動を入居者の方に参加していただき、地域の方に、温かい対応していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き(コロナ禍のため状況報告書を郵送)、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている。家族、地域の方の情報交換できるようにしている。	コロナ禍のなか運営推進会議は開催しなかった。入居者の状況、事業所現状報告と共に、家族からの情報は、利用者との面会の際に家族から意見などをもらい情報交換を行った。利用者との面会は家族にアポイントメントを取ってもらい、面会時間は10分で、予防対策のもと行った。グループホームのネットワークに参加し、意見交換なども行っている。それぞれの意見を集約し状況報告書を作成。役所、包括、公民館などへ送付している。	運営推進会議に家族からの意見をもらい、サービス向上に活かしている。来年度も、会議に参加して頂き、より多くの意見をもらいサービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている。包括支援センターの主催により、民生委員とのアンケート調査などに参加している。	運営推進会議の議事録や広報誌を送付し、現状把握をしてもらっている。包括支援センターの依頼で、地域に対してのアンケートを提出した。昨年は介護事業所、自治会の方が集まり、眼科の医師を囲みディスカッションを行った。利用者はインフルエンザ予防接種を2回うった。役所とはメールでのやり取りを行っており、連絡を密にして協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の鍵を持ちたい入居者の方には、鍵を持って頂いている。居室内の吐き出し窓も、基本施錠は行っていない。	職員は外部研修に参加し、内部研修で伝達し、ケアの実践に取り組んでいる。ユニット会議は合同で行っており「身体拘束の話」を行った。人感センターは二人利用しており、家族に同意を得ている。離設などに関しては、近隣に住む方が気にかけてくださり、助言をもらう事もある。スピーチロックに関しては、職員同士お互いに注意している。	

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い、計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えて言っている。職員は外部研修に参加し、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせれないよう防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を申請され、今後利用されている入居者が居られる。施設からの提案で後見制度を利用されている。	職員は年1回外部研修に参加し、内部研修で伝達している。成年後見制度を活用したいとの話はあったが、活用するまでには至っていない。必要時は、ホーム長が詳しく話をする。契約時には家族などに成年後見制度について説明し、パンフレットの準備もしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明し了承を得たうえで契約している。また制度改正がある場合などは再度説明し同意書を得るようにする。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客満足度アンケートを、家族に郵送にて行っている。日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にしご意見や要望を伺うよう努めている。	昨年は運営推進会議と一緒に敬老会を行い、アンケートを送付したが、戻りがなかった。家族の訪問時に、意見、要望を言われることが多い。コロナ禍のなか、訪問に機会は少なくなったが、日頃から家族の方には利用者の状況報告を密にし意見、要望を伺い運営に反映させるようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている。	月1回2ユニット合同で会議があり、意見や、提案を述べる機会がある。ユニットは1階に並んであり、行き来がしやすく、活動しやすい。今感じることを大事にして、相談したり、意見や提案をするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が年間目標を設定し、半年に1度面談を実施、達成状況や勤務状況の確認を行い、働きやすい職場環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から50代の職員が働いており、男女の区別なく雇用 面接で、介護の関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している。	個人目標を立て、年2回の個別面談で、アドバイスをもらい、次のステップに向けている。今、実務研修を受けている。コミュニケーションの取り方などに迷った時は先輩に相談する。24時間シートを活用し介護のかかわり方を考え個別を大事にしている。研修への参加の機会もあり、介護福祉士、ケアマネジャー等にも挑戦しようと思う。歌レクでは歌詞カードを製作したり、敬老会では「マツケンサンバ」「夢芝居」などを唄った。食レク時は職員が得意な腕を振るいカレーを作った。個々に得意な事を発揮し、生き生きと勤務し、自己実現を目指している。	

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している。	1月には、3回に分け管理者が職員全員に研修を行う。リスクマネジメント、事故防止活動の基本、安全管理と身体拘束の関係、コミュニケーションなど又人権啓発活動のビデオを見て勉強をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育スケジュールをもとに、職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設のポート野芥の計画作成担当者に相互訪問などを行い、お互いに質の向上について相談を行っている。グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「本人の思い」を確認するために、24時間暮らしの情報シートを家族に記入していただいている。施設にはいっても、暮らしの継続が出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき事前に楽しみや要望を聞きよりよい「本人の思い」をサービスに繋がるよう取り組んでいる。 契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努め		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになり、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案していつている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続の中で、「今を生きる」という意識から、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夢実現などの行事ごとに参加のお願いをしたり、遠方に外出するさい、家族から同行依頼をお受けしている。本人の思いを根拠に、ご家族との気持ちに寄り添い意向を聞きながら、ご本人を中心としたチームとして良い関係が築けるように心がけている。		

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染み場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている。 夢実現などの行事ごとに参加のお願いをしたり、遠方に外出するさい、家族から同行依頼をお受けしている。	利用者の思いを叶えられるように夢実現として個別に思いを聞いている。「岡垣町の神社に行きたい」「抹茶をたて、和菓子を食いたい」「食事に行きたい」など夢を話される。2月には神社に行くなど実現に向けており、本人、家族の気持ちに寄り添い、ともに本人を支えていく関係を築いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう職員が介入 また、編み物や洗濯物たたみ等をできる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどをしている。看取りの方は49日などに訪問や、初盆には線香を送らせて頂いている。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように努めている。入居後も、今の生活に合わせて24時間シートを変更し本人本意のケアを行っている。	自宅、病院、施設などを訪問、又は利用者家族が事業所を訪問する事もある。入居前に、24時間暮らしの情報シートを家族に書いてもらう。家族がわからない部分は大家さん、隣人などに家族から聞いてもらい、回りの協力も得て、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める。入居後、本人の表情、様子から思いを汲み取り、変更の必要な部分は赤字で書き込み、職員全員で共有している。本人の思いを取り入れて行こうとするスタンスから、家族からの葉書をファイルし、折を見て本人に見てもらっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らしの継続を知るために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、自宅といったときと同じ時間の流れを日々の暮らしの中に取り入れ、生活を送れるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。また、入居者の表情や言動に注意し現状の把握に努めるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートから本人の「出来ること・出来ないかもしれないこと」をカンファなどで話し合い、ケアプラン作成を行っている。 ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている。	暫定フランは3ヶ月、短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で作成する。ユニット介護、申し送りで出た意見を職員全員で検討し、24時間シートを元に話し合う。パソコン内にプランに沿い実施されているかどうか、記録を打ち込む。ケアマネジャーがモニタリングを行い、変化を見逃さないようにし、改善が必要な時はフランを作り直す。ケアプランのチェックはホーム長が行っている。現状に即した介護計画を作成している。	

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入、気づきがあれば申し送り用紙に記入、職員同士で話し合い、情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「多楽院」で、本人の思いを通して、山前や近隣に出掛けたり、行事や公民館サークル活動に参加を行い楽しむ機会を支援しているが、コロナ禍のため、施設内サークルを立ち上げ、入居者の楽しみにつなげている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方、ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約、日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている。	内科、精神科などかかりつけ医には家族と受診する。利用者の状況は書面で家族に渡す。内服薬の変更があった時は家族から報告を受け、職員全員で、共有する。訪問診療、訪問歯科と契約し、日常の様子や体調は提携のクリニックへ報告し連携を図っている。他科受診の眼科、耳鼻科、皮膚科などには家族又は職員が対応する。提携のクリニックでは、医師に24時間対応してもらえる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際には、職員が日々感じている入居者の状況を記載し、提携のクリニックの看護師や訪問看護師と手渡しやFAXで報告し、相談や助言をいただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている。状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている。今後の方針として、介護計画をご本人にとって最適な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく。	契約時に重度化した場合や終末期のありかたについて説明し、同意書をもらっている。看取りが必要になった場合、医師から提案があり、家族、医師、職員と再度話し合いの時間をもち看取りの介護計画を作成する。ホーム長が、職員には冊子を渡し看取りについての説明をする。今年度は1名様の看取りをさせていただいた。本人の様子を見て学ぶことが大事であり、事業所で、できることを十分に説明しながら、チームで支援に取り組んでいる。	

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており、職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている。 職員に応急手当普及員講習修了者が居るので、定期的にAEDの使用の訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う 消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施。 また、定期的に防災委員会を開催している。 災害時の備蓄品を備えている。	総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う。令和2年11月には看護師協会より人形をかり「AED」の訓練を行った。令和3年1月には、物が喉につまった時の対処方法の訓練を行う。災害対策マニュアルについては、訓練の時に話しをする。備蓄は法人の方で、管理栄養士が必要な物を用意してくれている。今回、水防法により、対策法を役所に提出する必要があり、今後は、水害の訓練を行う。	
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議にて、ユニットチェックを行い、ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをし、プライドを傷つけないように心がけている。プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている。家族に日常の状況報告の際は、別室にて行っている。	毎日、ミニカンファレンスで話し合いを行っている。相手の気持ちを尊重した声かけ、言葉かけとはどのようなものか、相手の事を思いやつの言葉かけでも、プライドを傷つけるような時もある。深い部分で話し合いを行っている。写真の使用など個人情報の了解は利用者、家族に了解を取っている。呼び名は本人が気持ちが落ち着くならば、名前で呼ぶこともある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている。出来るかもしれない探しをする中で、本人の生きる力を、発揮できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るため「食べて・寝起きして・出す」を生活のベースにし、朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声をかけ、しっかり覚醒してから食事を提供している。一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく。整容に関しては、髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている。食べたい物があるときは、外出支援として、食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている。	食事は業者から納入してもらい、炊飯は事業所で行ない炊きたてのご飯を食べられる。利用者と職員と一緒に盛り付けを行ったり、食器を洗う、拭く、テーブルを拭く等できることは手伝ってもらう。クリスマスケーキは購入している。職員がサンタクロースになりお菓子のプレゼントをした。以前は家族の食事介助があった。外出レクとしては「回転ずし」「木の葉モール」などに行き、すしの出前を取った事もあり、食事を楽しんでいる。	

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている。病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている。 捕食を準備し、本人の好きな食べ物を準備し、習慣に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア加算を算定している。 訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートをもとに、入居者の暮らしの継続を守るために、「食べて・寝起きて・出す」を生活のベースにし、入居者を定時に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、リハビリパンツからコットンパンツへ戻している。	24時間シートをもとに個々の排泄時間を把握する。朝の起床時間に失禁が多く、リハビリパンツを洗おうとするので、布パンツにした。朝、トイレの声かけにより日中の失敗が無くなった。夜中も布パンツで自分で起き排泄をしている。失敗もあるがそのままの状態様子を見ている。日中布パンツの利用者が2ユニットで8名いる。排泄シートに、排尿、排便、水分補給、食事量、服薬、バイタルが記入されており、各ユニットに排泄委員が1名。各ユニットで毎日申し送りを行い、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・褥瘡予防委員から発信し、便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする腸活の工夫している。目標は、入居者の排泄に変化に適宜対応し、24時間シートに反映を行い、安心して過ごしていただく。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるように、24時間シートに記載しケアの統一を行っている。	入浴の日程は週2回午後3人と概ね決めているが、夜間以外、利用者の希望に沿い入ってもらっている。毎回、湯は入れ替え、季節のゆず湯、しょうぶ湯などに行きがある。皮膚疾患がある時は写真を撮り医師に診てもらい、健康管理に気をつけている。入浴時間はコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている。日中の活動状況に合わせ休息できる時間を支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導の薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしている。薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの継続が出来るように、本人の意向好み・出来ることを支援している。本人の思いから「夢実現」につなげている。		

R2.12自己・外部評価表(ポート賀茂)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で一月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている。玄関のしつらえを行い、ベンチなどを設置している。	法人主催の祭りが年2回あり、近隣の方には法人より案内を出している。ママさんコーラス、ゴスペルなどを楽しめる。日常的な外出は、日々の会話から利用者の思いを汲み取り「夢実現」と言う形で、月1回は買い物に行ったり、食事、ドライブに行く。玄関入り口にはベンチをあしらえ季節の花をめでながら、ひと時を、過ごせる場所がある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者が家族とお話がしたいときは、電話をかけることが出来るように支援している。 年賀状や残暑見舞いなど、家族に送られる入居者の方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しつらえのコンセプトを和モダンとし、普通の家の玄関を作り込んでいる。食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の生花を活けたり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している	天井は高く吹き抜けになっており、室内に明るい日差しが降り注いでいる。午後のひとときは、程よい音量でジャズが流れていた。中庭にはお茶を楽しめるスペースが作られ、あでやかなお花が飾られている。食堂のテーブルの配置も考えられ、リビングでくつろげる空間を作っており、職員のサンタクロースの姿に、利用者の顔に笑顔があふれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット事に、食事の場・くつろぎ場・記録の場とし環境作りを行っている。好きな場で気の合った入居者同士話が出来たり、独りでくつろげるように椅子やソファを配置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている。暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている。 毎月、入居者らしいお部屋について、ユニット会議内で、しつらえの評価を行っている。	今までの環境を大事にして、馴染みのテレビ、冷蔵庫、家具などを配置し、自宅に近い環境となるようにしている。仏壇などを持参している利用者もいる。家族の笑顔あふれた写真を飾って和やかな時が感じられる。自分で製作されたカラフルなちぎり絵を飾り、モダンな楽しいお部屋にされている方もいる。身体状況が変わった時などは、ユニット会議で話し合い、利用者、家族とも相談し、しつらえを考えるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットごとに、食事の場・くつろぎの場・記録の場として環境作りを行っている。洗濯物を庭で干せるように設置している。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している。全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている。		